

2012年 社長年頭挨拶

日本生命保険相互会社(社長 筒井義信)は、年頭挨拶として、社長から全役員・職員に向け、メッセージをおくりました。社長からのメッセージのあらまきは以下のとおりです。

平成24年のスタートにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、自然災害や金融市場の混乱など、巨大なリスクが立て続けに発生した、激動の1年でした。しかし一方で、国民に安全・安心を提供するという、生命保険の役割、お客様への保障責任を全うするという社会的な使命、そしてそれを果しきる日本生命の底力を再認識した1年でもありました。

東日本大震災では、被災された皆様が一刻も早くご安心できるよう、最大限の配慮にもとづいた様々な対応を、業界をあげて迅速に行っていました。

特に被災地の職員方は、自分自身が過酷な状況にさらされながらも、お客様の安否確認に奔走し、その後も、継続して全力でお客様サービスに取り組んでいただきました。私はそのような使命感にあふれた姿を目の当たりにし、強く胸を打たれました。

まさに日本生命が誇るべき現場の高い規律と強い連帯、フェイス・トゥ・フェイスの強みが見事に発揮され、全社一丸となって激動の1年を懸命に乗り越えることができたと思います。

日本生命のもう一つの底力が「強固な財務基盤」です。本社は10年にわたって自己資本を着実に積み上げ、その水準は3兆円に達しております。これによってリーマンショックや今回の大震災、金融市場の混乱を乗り越えてきました。今後も、自己資本の更なる強化を図り、保険金の確実なお支払いや継続的なご契約者配当の還元を通じ、お客様への保障責任を全うし続けてまいります。

今年の4月には、5年の歳月をかけて取り組んできた「新統合戦略」の本格スタートを迎えます。新統合戦略のポイントは、新携帯端末や新商品体系の導入といった「インフラの変革」のみならず、それを最大限に活かす「人」の力、職員一人ひとりの「働き方の変革」が不可欠であることです。

このインフラと「人」の融合こそが新統合戦略の目指す姿であり、それが、お客様サービス力の飛躍的向上と、販売と事務の両面からの生産性向上を実現する鍵となります。

「人」の力は、「真に最大・最優、信頼度抜群の生命保険会社に成る」というニッセイ全員目標を成し遂げるための、すべての礎です。

現場の声に耳を傾ける「闊達な社風」こそが本社の DNA であり、それを守り抜くことが高い規律と強い連帯に裏打ちされた誇るべき現場力を更に強くしていくと、確信しております。

今年、一人ひとりが「はつらつ」と「輝き」続ける1年になるよう、全員で足並みを揃えて、力強くステップを踏み出していきましょう。